

# ウンシュウミカン園における

## 新たな土壌改良法による樹勢強化対策

温暖化により低下した樹勢を強化するため、腐植資材「ネバリン」や液状有機資材「ソイルサプリエキス」を施用することで細根が増加し、樹勢を維持強化することが可能となりました。また、施用した堆肥をバックホウで土壌と混和する省力的な土壌改良法を開発しました。

### 新たな資材による根量の確保

#### ○腐植資材「ネバリン」

成木園において、堆肥の代替資材として80～100kg（4～5袋）/10aを、毎年2～3月に表層施用することで、細根量が増加しました。



図 成木園におけるネバリン施用後の細根の状況

#### ○液状有機資材「ソイルサプリエキス（SSE）」



苗木定植時や幼木に、SSE10倍希釈液を樹当たり数～5L程度土壌灌注することで、細根量が増加しました。

図 SSE10倍希釈液を施用した苗木の生育状況

### 堆肥を利用した土壌改良手法による根量の確保

#### ○小型バックホウを利用した土壌改良

成木園において、完熟堆肥（バークや牛ふん）1～2t/10aを樹冠より少し外側の土壌表面に線状に施用しバックホウにより土壌と堆肥を混和（深さ20～30cm程度）することで、細根量が増加しました。



図 使用するバックホウの例

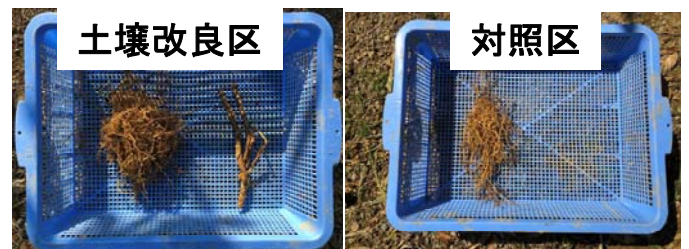


図 土壌改良1年後の改良部位の細根量